

沖の鳥島の有効活用に対する提案

——国際地球環境研究基地——

久田 安夫

沖の鳥島は北緯 20 度、東経 136 度の南西太平洋にある日本最南端の島であり、半径 200 カイリの排他的経済水域を確保しうる貴重な日本の領土である。その重要性に鑑み、平成 11 年 5 月の海岸法一部改正により、国の直轄管理とされた。また、この島では、今から 15 年前の昭和 62 年から 3 ヶ年に亘り、政府の国土保全事業が 300 億円の事業規模で実施され、鉄製のテトラポッド等が、島とは名ばかりの小さな岩（これが日本の最南端の領土）を太平洋の荒波から守るために設置された。その後、最近になって更にチタンネットによる防護工事が施工された。

一方、領海、排他的経済水域等に関する規定を盛り込んだ“国連海洋法条約”が平成 6 年（1994 年）に発効し、我が国は平成 8 年にこの条約を批准している。

この条約には「島の制度」と言われる条項が設けられ、

1. 島とは自然に形成された陸地であって、水に囲まれ、高潮時においても水面上にあるものを言う。
2. 3 に定める場合を除くほか、島の領海、接続水域、排他的経済水域及び大陸棚は他の領土に適用のあるこの条約の規定に従って決定される。
3. 人間の居住又は独自の経済的生活を維持することのできない岩は排他的経済水域又は大陸棚を有しない。

と規定され、この条件を満たさないものは“岩”とされ、領海は有するものの、半径 200 カイリに及ぶ経済水域を持つことが出来ないことになる。

現在のところ、この条約でいう「島の制度」の 3. についての解釈にこれといった定説はないようであるが、日本政府の公式見解は 3. でいう岩ではなく、沖の鳥島は排他的経済水域を有するとしている。しかし、国際的に確実に“島”と認められるためには、次のような追加的な措置をとることが好ましいとする意見もある。

- a. 沖の鳥島の資質を活かし、有効に利用する活動を行うこと。
- b. 複数の人間が活動すること。
- c. 季節などにより大きな変動がなく、一年を通じて一定の人数の人間が活動していること。
- d. 全てを外部からの補給に頼らず、沖の鳥島の中である程度の自給システムを持つこと。

そこで、これらの条件を満足させる一案として、海が地球環境の改善と人類の生存に如何に寄与し得るかを調査・研究すると共に、その実証的事業を実施する場として沖の鳥島を活用することを提案したい。また、これらの活動は経団連の 2000 年 7 月の提言にあるような国際的にも開かれたものとして運用されることが望ましい。

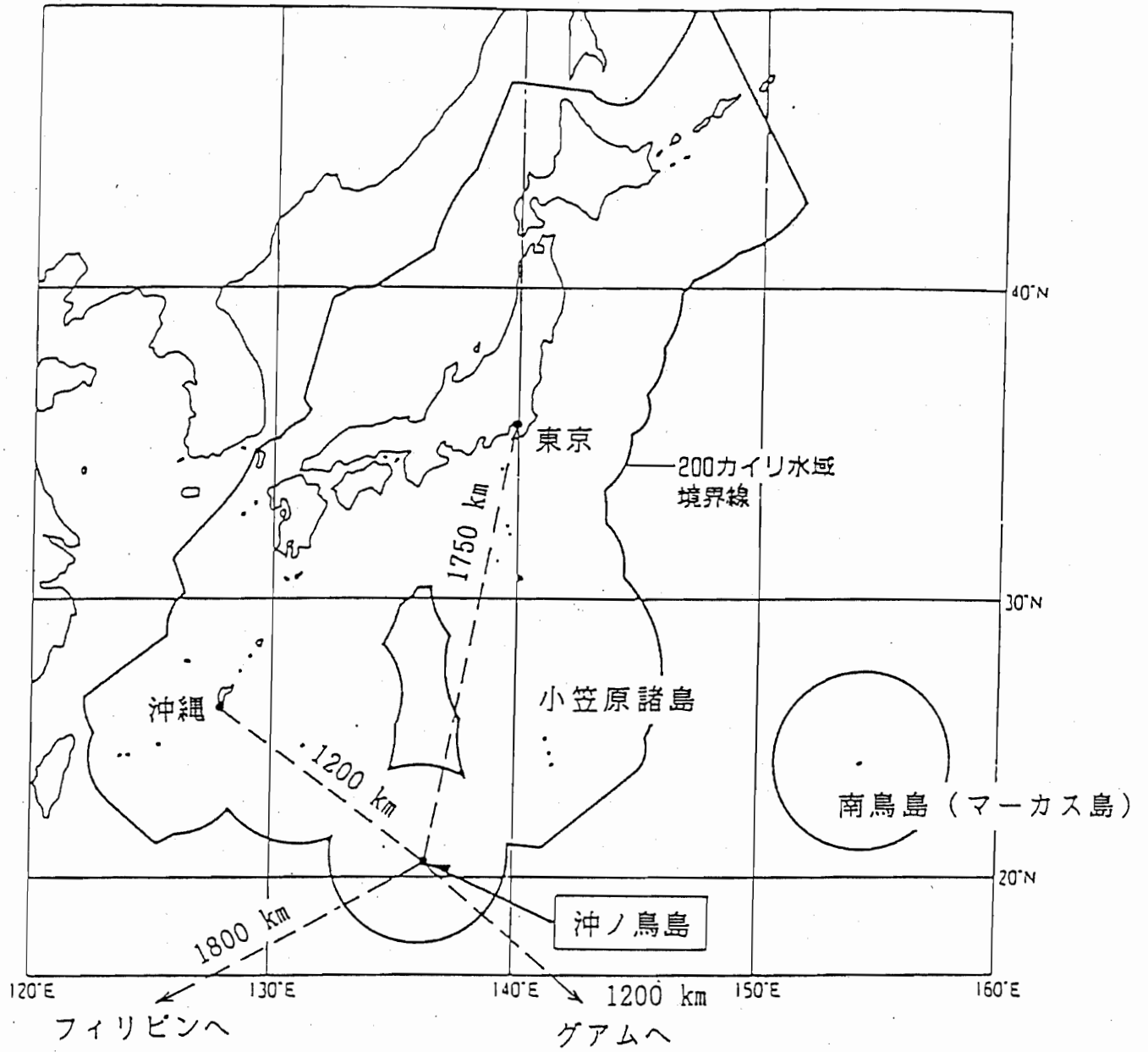
その具体的活動としては、まず急峻な海底勾配を利用して深層の海水（-500m以深）を汲み上げる。この低温の深層水と高温の表層水との温度差により発電を行う。同時に淡水化システムを導入して淡水を造る。

次にこれらの深層水、電力、淡水を利用して

- ①地球温暖化防止の一つの有効な手段として期待されているCO₂の海水中への固定化の可能性の実証的研究を行う。
- ②海洋における水産資源の増産の可能性について実証的研究を行う。
- ③深層水の資源としての有効性について実証的研究を行う。

以上が提案の骨子であるが事業規模としては概ね1000億円程度と試算している。

今後政・官を含む幅広い有識者の方々や、学界の専門家の方々の御賛同と御指導を得つつ、提案の実現を計りたいと考えている。



位置図

Positions obtained from satellite navigation systems or others referred to the World Geodetic System (WGS-84) must be moved 0.25 minutes SOUTHWARD and 0.18 minutes EASTWARD to agree with this chart.



140° 52' E

54'

54'

NISI-NO-SI
Surveys of the Hydrographic Department,
M.S.A., Japan to 1980.

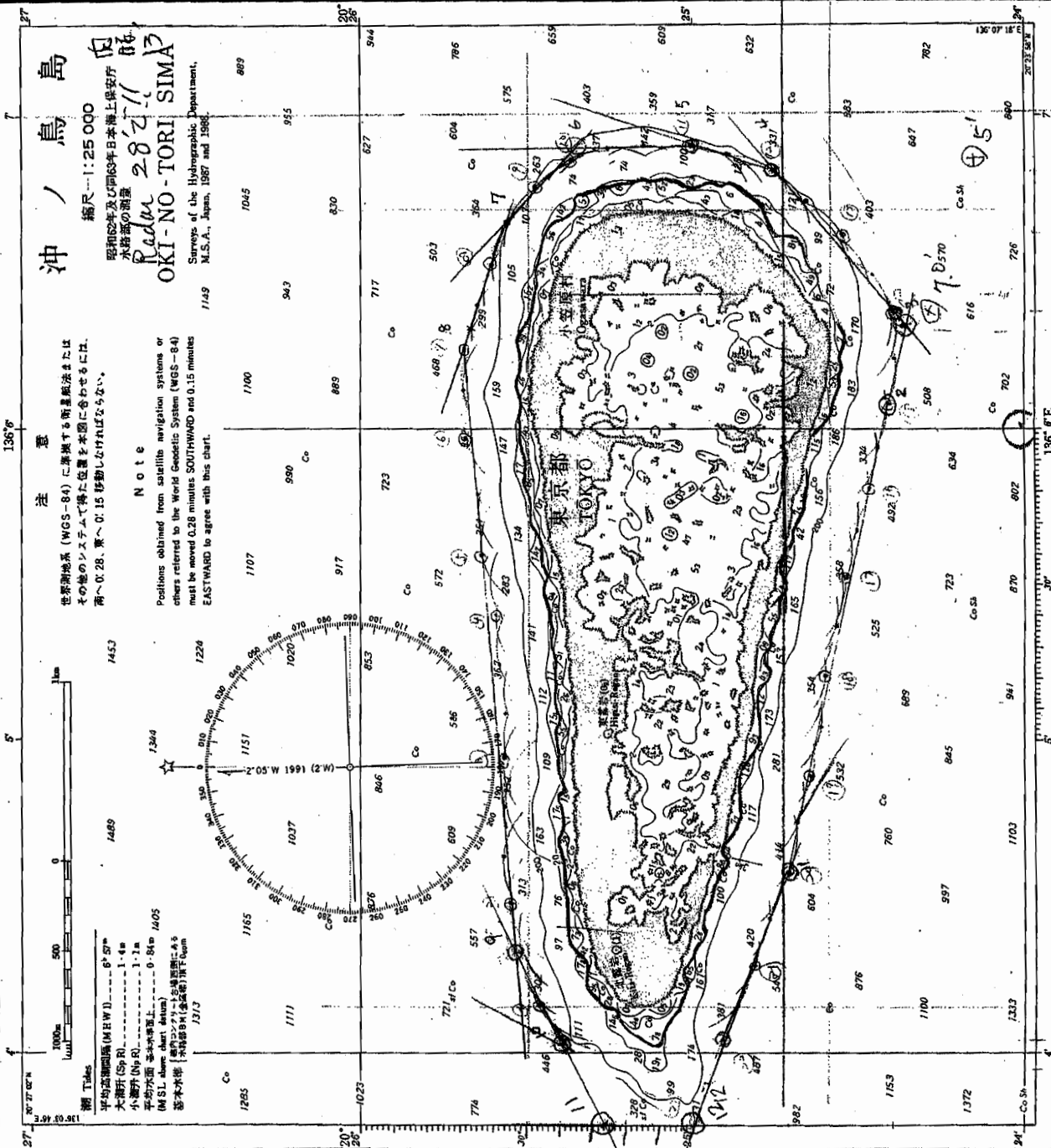
沖ノ島

縮尺 1:25 000
昭和62年及び昭和63年日本海上保安庁
水測部の測量
OKI-NO-TORI SIMA
Surveys of the Hydrographic Department,
M.S.A., Japan, 1987 and 1988

注意
世界測地系 (WGS-84) に準拠する衛星測法または
その他のシステムで得た位置を本図に合わせるには、
南へ0.25、東へ0.15移動しなければならぬ。

NOTE
Positions obtained from satellite navigation systems or
others referred to the World Geodetic System (WGS-84)
must be moved 0.25 minutes SOUTHWARD and 0.15 minutes
EASTWARD to agree with this chart.

- 潮の深さ
- 平均高潮間隔 (MHW) 6' 5"
 - 大潮干 (SpR) 1.4m
 - 小潮干 (NpR) 1.1m
 - 平均水面 日本水準上 0.84m 1405
 - (MSL above chart datum)
 - 日本水準 (日本水準に4.9
メートル下) (多摩川下流)
131.3



27'

136° 0'

5'

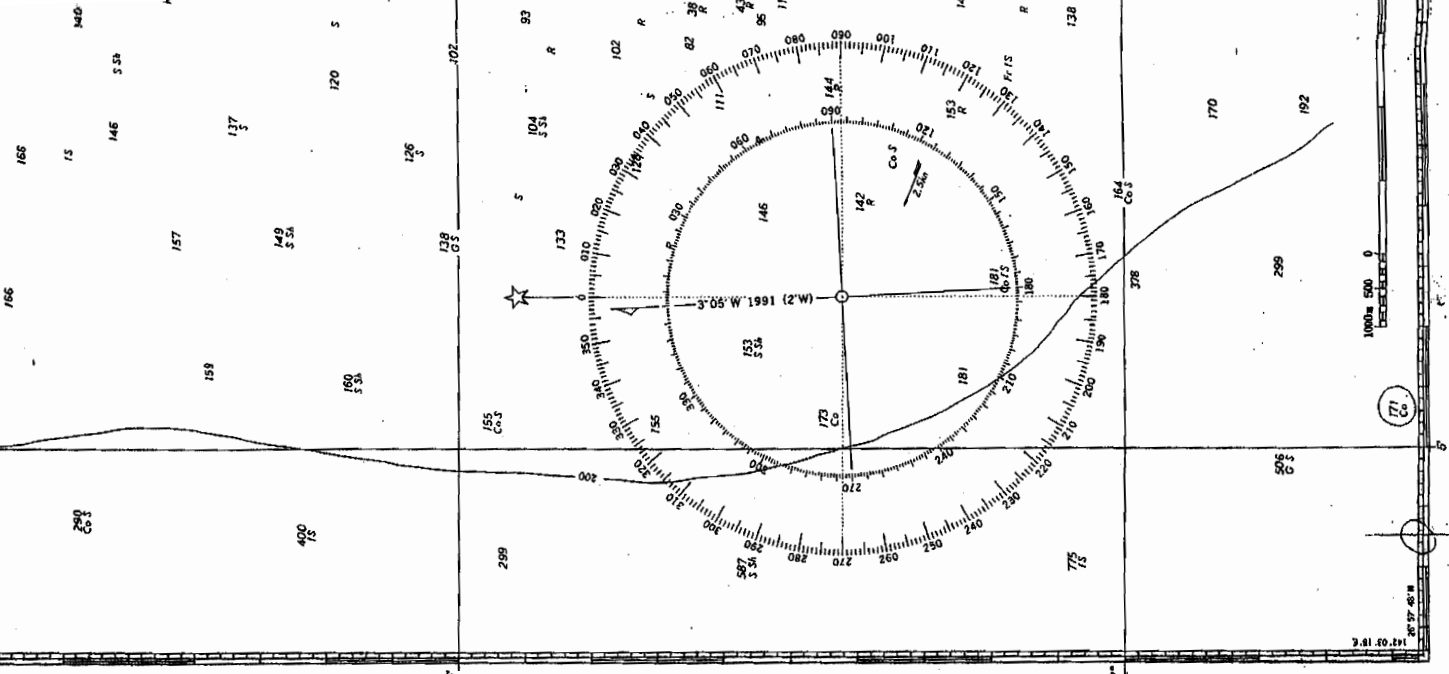
31'

27'

136° 0' E

6'

31'



146
Co.S

165

166

260
Co.S

159

157

146
S.S.

137
S

149
S.S.

160
S.S.

120
S

126
S

139
Co.S

102

146
R

93

102

82
S

62
S

43
S

26
S

118

080

090

001

01

021

153
R

01

011

021

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

011

海上保安庁 刊行
平成3年3月14日
14th Mar., 1991.

水測通帳 (Notices to Mariners)